

グローバル教育対応委員会の取り組み

川名 隆行

三宅 健次

吉本 一紀

中井 康平

山崎 達也

I グローバル対応委員会とは

本校グローバル対応委員会は、令和2年度校務分掌において特設委員会として初めて設置された。本委員会は本校の設置母体である千葉大学のグローバル戦略（全員留学等）を受けて、附属中学校としてもグローバル化に対応した組織作りを行うべく発足したものであり、本年度の委員は、三宅健次（副校長）、川名隆行（英語科）、吉本一紀（理科）、中井康平（英語科）、山崎達也（英語科）であった。

II 活動方針及び活動実績

1 活動方針

本委員会では、次のように活動方針を設定している。

グローバル教育をゼロベースから立ち上げるのではなく、既存の組織及び教育活動との連携を図りながら、既存の学校教育の中に融合させていく。

グローバル教育を既存の組織及び教育活動と連携させながら推進していけば、様々な活動を行っていくことができる考えた。（図1）



図1

例えば、①特別活動との連携、②帰国生教育との連携、③外国語教育との連携が考えられる。この三つについては、グローバル教育との関連性が比較的高く、中心的な活動となっていくことが考えられる。しかしながら、④道徳を含む各教科との連携も十分可能性はある。また、特別活動に含まれるものではあるが、生徒の自主的で主体的な活動を期待して、⑤生徒会活動との連携という視点も持つておくべきであろう。

2 本年度の活動実績一覧

本年度は委員会が発足してから2年目にあたる。有識者の助言を受けながら下記活動実績一覧の（1）～

（5）を行った。新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、中止となってしまった活動もあったが、そのような状況の中でこれだけの実績を残すことができたのは幸いであった。また、前項で示した①～⑤の全ての内容を網羅した活動ができた。

活動実績一覧

- | | |
|------------------------|--------------------|
| （1）リーディングマラソンの導入 | （2021年4月開始） |
| （2）選択授業（グローバルリーディング）実施 | （2021年前期・後期） |
| （3）第2学年次校外学習の立案（中止） | （2021年10月3日～10月5日） |
| （4）帰国生との連携 | （文化祭2021年10月23日） |
| （5）グローバル教育講演会 | （2022年3月開催予定） |

3 リーディングマラソンの導入

英語科と連携し、リーディングマラソンを導入することとした。リーディングマラソンとは、一般的にはいわゆる多読を推奨する活動である。しかし、今回導入するリーディングマラソンは、単に英語の読解力をつけたり、語彙力をつけたりするだけでなく、内容にも迫り異文化理解の促進を図る「問い」（詳しくは後述）も内包したものである。

（1）教材

本校英語科では過去に多読のためのリーディングマラソンを実施していたという経緯があり、図書室には当時使用していた洋書が残っている。また、昨年度のグローバル対応委員会の発足により、20万円の予算を計上して頂き新規購入も含めて数百冊の洋書の蔵書を確保した。

（2）記録シートと問い

記録シートの表面には語数を記録する表を、裏面には、読んだ本のタイトルを記録しておく欄、一言感想と異文化新発見を記入する欄を設けた。（写真1）異文化新発見の欄に記入する際の「問い」が、「話の筋に関わらず、あなたが初めて知った文化的事項や、自分を取り巻く環境的・文化的な状況と登場人物等を取り巻く状況が大きく異なると感じたことは何ですか。」である。この問いに答えようとすることで異文化理解が促

Reading Marathon Recoding Sheet ⁽¹⁾									
START	150	100	150	200	250	300	350	400	500
	1分毎に読むべき量として、 1分毎に読むべき量								
400	700	800	900	1000	1100	1200	1300	1400	1500
	1分毎に読むべき量として、 1分毎に読むべき量								
1400	1700	1800	1900	2000	2100	2200	2400	2600	3000
	1分毎に読むべき量として、 1分毎に読むべき量								
2200	2400	2600	2800	4000	4200	4400	4600	4800	5000
	1分毎に読むべき量として、 1分毎に読むべき量								
3300	3600	3900	4200	4500	4800	5100	5400	5700	6000
	1分毎に読むべき量として、 1分毎に読むべき量								
8200	8800	9200	9400	10000	10400	10800	11200	11600	12000
	1分毎に読むべき量として、 1分毎に読むべき量								
12500	13000	13500	14000	14500	15000	15500	16000	16500	17000
	1分毎に読むべき量として、 1分毎に読むべき量								
18500	19000	20000	21000	22000	23000	24000	25000	26000	27000
	1分毎に読むべき量として、 1分毎に読むべき量								
29400	31000	33000	35000	37000	39000	41000	43000	45000	47000
	1分毎に読むべき量として、 1分毎に読むべき量								
50800	53000	56000	59000	62000	65000	68000	71000	74000	77000
	1分毎に読むべき量として、 1分毎に読むべき量								
80800	84000	88000	92000	96000	100000	104000	108000	112000	120000
	1分毎に読むべき量として、 1分毎に読むべき量								
125000	130000	135000	140000	145000	150000	155000	160000	165000	170000
	1分毎に読むべき量として、 1分毎に読むべき量								
173000	180000	185000	190000	195000	200000	205000	210000	215000	220000
	1分毎に読むべき量として、 1分毎に読むべき量								
GOAL & START									

4 選択授業（グローバルリーディング）実施

929. Rapunzel
自国が"知"ているラプンセルとは全然ちがうあだづいた。
punished. 罰するとの意味がある。文のつくりが部を少れかえ
930. FROZEN
英語が"ありのまま"で、日本のものとはいみちがれかた。

5 第2学年次校外学習の立案

(1) 活動内容の概要

けであるが、英語を学ぶというよりは、英語を用いて、英語という言語で課題を解決していくことになる。ここに、異文化に浸からせるひとつの狙いがある。言語は文化であることから、前述のように、自分の話す言語が通用しないという経験をすることでマイノリティの認識を促したい。なお、本校外学習で実施する内容は表1の通りである。

	1 日 目	2 日 目	3 日 目
午 前	バス移動	自然体験 Interview Orienteering	Team Challenge
午 後	Fun with language	British Hills Experience	バス移動
		Calligraphy	
夜	英国式テー ブルマナー講座 Activity	Activity	

校外学習中には、主なレッスンとして5講座を盛り込んだ。それぞれの詳細は表2の通りである。また、その他にも夕食を英国式テーブルマナー講座として体験したり、夜間や日中の空き時間などには、チェス、パズゲーム、スヌーカーなどの体験をしたりすることができる。

講座名	Fun with language
内容	様々な単語を使ったゲームを通して、「英語は楽しい!」と気づきを得ることができる。
講座名	Interview Orienteering
内容	アウトドアで英会話を楽しむ。ブリティッシュヒルズ教員に質問したり、会話をしたりしながら美しいネイチャートレイルを行う。
講座名	British Hills Experience
内容	海外滞在中に起こりうる様々なトラブルを解決するための表現を学ぶ。また、ブリティッシュヒルズの施設を活用し、実際にスタッフとの会話を通じて海外で過ごしているような体験をする。
講座名	Calligraphy
内容	伝統的な英語の書法カリグラフィーの道具や材料、ペンの持ち方について学ぶ。手紙やメッセージカード作りに挑戦する。
講座名	Team Challenge
内容	仲間と協力しながら、英語コミュニケーション力、問題解決力、時間管理能力を駆使して様々な課題に取り組む。

6 帰国生との連携

文化祭では、帰国生の過ごしてきた国や地域のレポート展示や滞在国の伝統的な調度品などの展示を行った。また、滞在国に関するゲームやクイズなどを行い、一般生徒と対話をしながら外国の文化などを紹介した。全校生徒の約半数が帰国生の文化祭発表を訪れ、驚きと共に楽しく発表を見入っていたので、今後もこのような学習の機会を帰国生教育と連携を図りながら提供していきたい。

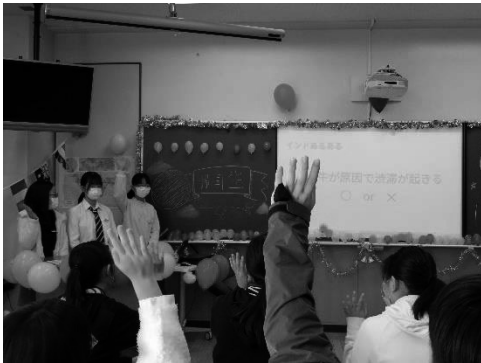


写真3 帰国生文化祭発表の様子

また、今年度は日常の学校生活の中でも、帰国生が一般生徒に対して、外国の文化や習慣について紹介する機会を得た。具体的には、生徒会の報道委員会と連携し、昼の放送にてクイズを行ったり、滞在国の言語で日常会話に使える表現を紹介したりした。一般の生徒にとっては、楽しみながら外国の習慣や言語への理解や知識を深める良い機会となった。



写真4 帰国生が放送をする様子

7 グローバル教育講演会

令和3年度末にグローバル教育講演会と題し、本年度のグローバル教育の目玉行事として講演会を予定している。今回の講演会については、千葉大学大学院国際学術研究院の野村和之先生に全面的にご協力を頂き、講師の手配をして頂いた。記念すべき第一回は日本在住で香港出身の方からお話を頂く予定である。演題「Is Freedom Free?～平和は無償なのか～（仮題）」のもと、香港の情勢についてお話しして頂く。

野村先生によると、日本で生まれ育った生徒に、多

様な価値観が交錯する世界の複雑さを紹介していくことには価値があるとのことだ。本校の生徒には世界の現実を見聞きし、実態を把握したうえで世界に羽ばたいていってほしい。この講演会がそのきっかけになれば幸甚である。今後も、こうした講演会を定期的に行っていきたいと考える。

Ⅲ 成果と課題

昨年に引き続き、新型コロナウイルスの感染が拡大し、従来の教育活動が十分に行えない状況があったにも拘わらず、いくつかのグローバル教育に関連する教育活動を行うことができたのは大きな成果だと言えよう。本原稿を執筆中も第6波が押し寄せ、感染が急拡大中である。年度末の講演会の実施の有無も定かではないが、休校とならない限りは、オンラインであっても実施したい。

課題は、グローバルな活動の直接的な体験を行うことができなかったということである。新型コロナウイルスの感染が終息しなければ達成できない課題ではあるが、グローバルを体感させることがグローバル教育においては重要であるため、今後も機会を伺っていきたい。

また、今年度はこの他にも数学科との連携や体育科及び英語科との連携も試みた。数学の授業においては、三角形の合同条件に関してアメリカの合同条件を題材に（日本では三角形の合同条件3つを教えているが、アメリカでは合同条件が4つある）グローバル教育ができないか検討した。しかし、グローバルな授業というよりは言語による合同条件の説明の仕方の違いに着目して数学的に考える授業であった。また、体育科英語科の連携により、ボッチャというスポーツを英語で行うという取り組みがあった。こちらも、単にルールを英語で言うことを行うにとどまってしまった。どちらもグローバル教育に発展する可能性は十分にあったが、英語を使用するだけになってしまうなど、グローバル教育に発展させることができなかった。このことを課題の2つ目として捉え、様々な取り組みをグローバルな視点で考えていくことを目指したい。